

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書9章18-22節＞

イエス様を簡単に救い主と信じているわけではない。信じる理由は何？

1 (18) イエス様はなぜこの時に問われたのか？

イエス様が一人で祈られるのは大事な時です(6:12, 9:28, 22:41)。この時は弟子たちにとっても特に重要な時でした。イエス様をどう理解しているかが問われたのですから。なぜこの時に問われたのか。弟子たちがイエス様に従って色々な経験をして来て「この時」と思われたのでしょうか。私たちも同じです。自分勝手にではなく、聖書を通してイエス様のことが分かって来た中で、いつか問われる時が来るのです。

2 (19) 人々はなぜこのように答えたのか？ その内容の意味と理由。

人々が色々言っているのには理由があります。旧約聖書の最後に、「見よ、わたしは大いなる恐るべき主の日が来る前に、預言者エリヤをあなたたちに遣わす」(マラキ書 3:23)とあります。人々はイエス様の奇跡を見て「大預言者が現れた」と思ったのです(7:16)。聖書を知らない現代人がイエス様を見て、ただ勝手に「救い主だ」と思い込むのとは違います。しかし、その彼らの理解も違ったのです。

3 (20) なぜペトロはこの様に答えたのか？ その内容の意味と理由。

ペトロは、主が「では、あなたがたは私をどう思うのか」と問われたのに対して、「神からのメシアです」と答えました。「メシア」はヘブル語で、新約聖書のギリシア語では「キリスト」と訳されています。「救い主」という意味です。ペトロは、救い主の前に現れる大預言者ではなく、救い主その方だと答えたのです。イエス様の傍で過ごす中で、神様が彼をそのような理解に導かれたのです。私たちが聖書に聞き続けて導かれ、洗礼の時に告白する「信仰告白」とはそのようなものです。

4 (21-22) これからさらに知ることになるイエス様の意味

しかしその後、主イエスはさらにペトロたちが考えもしなかった内容を語られたのです。これからイエス様に起こる、十字架の死に至る出来事とさらに驚くべき復活の予告です。聖書の信仰とは、自分で勝手に思う神様を信じるのではなく、聖書に記された内容をしっかり追い、信じるに足る恵みの内容であることを確認し、信じる信仰です。そうする中で神様は私たちを確かに信仰に導いて下さいますし、さらに私たちの思いを超えた恵みの内容を知って驚き、それをも受け入れさせて下さるのです。そしてその驚くべき恵みの内容こそが信じるに足るものなのです。